

第3回定例市会

学校園の非構造部材(窓ガラス、照明器具等)の耐震化対策急げ!

H24年、第3回定例市会(9月18日～10月23日)で向井道尋議員(須磨区選出)は、災害時に地域住民の避難所として使われる学校園の非構造部材の耐震化に向けた議論を展開。また通学路の安全対策や福祉避難所の点検整備を早急に進めるよう訴えました。

9月24日の本会議で向井道尋議員は、学校の非構造部材の耐震化などについて市の考えを質しました。

この中で向井議員は、災害時に多くの避難者が集まる体育館の照明など非構造部材の耐震化について「市は速やかに取り組むべき」と訴えました。



体育館の耐震化前



体育館の耐震化後

長寿命化と予算の縮減に努める

矢田市長は「古い時期に建設された約60校の体育館の耐震点検を実施して、早急に耐震化工事に取り組んでいきたい」と答えました。

また、校舎の老朽化対策について

通学路の安全対策を

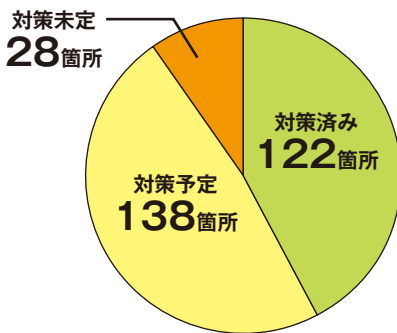
登下校中の児童が死傷する事故が相次いで発生している中、公明党は、通学路安全対策プロジェクトチームを立ち上げ、文部科学大臣に対して、緊急提言を行いました。それを受けて、全国すべての公立小学校と特別支援学校小学部の通学路の、緊急点検を行うよう指示が出されました。

神戸市の総点検では、小学校166校で危険箇所464箇所、対策必要箇所288箇所の調査結果が報告されており、うち、すでに対策済みが122箇所、対策予定が138箇所、

対策未定が28箇所となっています。向井議員は今後、具体的な対策の実施においては、教育委員会と、道路管理者である建設事務所が連携を図りながら、交通規制等については警察署との協議や地域の協議や地域住民との合意など、関係機関との綿密な打ち



神戸市小学校の危険対策必要箇所(288箇所)



合わせが必要となってくる。今後どのように関係機関との協議を進め、

対策を講じていく予定なのか、質問しました。

交通安全対策連絡会を有効活用

教育長は、今回調査点検した危険箇所については、11月末までに、いづつどのような対策を行うのか引き続き検討調整し、今後も「交通安全対策連絡会」の場を有効に活用し、安全で、安心な通学路・生活道路が確保できるよう取り組んでいきたいと答えました。

福祉避難所のバリアフリー視点での点検・整備を急げ!



福祉避難所は、阪神・淡路大震災時、避難所の高齢者や障がい者がストレスや持病の悪化で震災関連死を経験した反省を踏まえてできたもの。神戸市が

質疑したところ、年内に全施設を点検し、できるところから整備をしていくと答弁がありました。

指定している市内にある民間以外の主なものは地域福祉センター等216か所あります。災害時要援護者の避難拠点となる福祉避難所のバリアフリーの視点での点検・整備を急ぐよう



胃がん予防対策のABC検診を提案

厚生労働省の人口動態統計によると、日本では毎年約10万人が胃がんと診断され、5万人が亡くなっています。この数は肺がんに次ぎ2番目の多さで、患者数としては一番多くなっており特に50代以降の発症率、死亡率が高くなっています。

神戸市が本年実施したアンケート調査によると、がん検診については、胃がん、大腸がん、肺がんとも受けたことがないという人が半数以上あり、バリウムを飲むなどの検査が負担だという意見がありました。

胃がんの原因については、95%はピロリ菌であり、感染症であるということがわかってきました。そこで胃の中のピロリ菌を調べるのが血液検査によるABC検診といわれるものです。これはピロリ菌感染の有無と萎縮性胃炎の有無を組み合わせて、胃がんになりやすい状態かどうかをAからDの4段階のリスク分類で判定する検診法でその後の除菌や精密検査により胃がん予防に有効です。



胃がんリスク検診(ABC検診)

| ABC分類 | A群 | B群 | C群 | D群 |
|-----------------|-------------------------|---------------------------------------|----------------------|-----------------------------------|
| ピロリ菌 | — | + | + | — |
| ペプシノゲン値 | — | — | + | + |
| 胃がんの危険度 | 低 | | | 高 |
| 胃の健康度 | 健康な胃粘膜。胃粘膜萎縮の可能性は非常に低い。 | 胃潰瘍に注意。少数ながら胃がんの可能性も。胃粘膜の萎縮がない、または軽い。 | 慢性萎縮性胃炎。胃粘膜萎縮が進んでいる。 | 胃がんの可能性。胃粘膜萎縮が進み過ぎ、ピロリ菌が胃に住めずに退却。 |
| その後の管理・対処法 | 管理対象から除外。 | 必ずピロリ菌除菌。除菌前後に画像検査。 | ピロリ菌除菌の徹底。定期的に内視鏡検査 | 毎年の内視鏡検査。 |
| 年間の胃がん発生頻度 | ほぼゼロ | 1000人に1人 | 500人に1人 | 80人に1人 |
| 判定後2次精密画像検査(間隔) | 不要* | 必要(3年以内) | 必要(2年以内) | 必要(毎年) |
| ピロリ菌除菌 | 不要 | 必要 | 必要 | 必要 |

*自覚症状のある人、また過去5年以内に精密画像検査を受けていない人は必要。

出典 NPO法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構

iPS細胞 ノーベル賞研究 公明も後押し

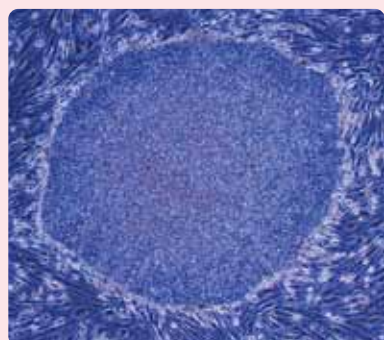
—— 自公政権下で科学技術予算を大幅増額 ——

再生医療などへの応用が期待されるiPS細胞を2006年に世界で初めて作製した京都大学の山中伸弥教授がノーベル医学・生理学賞を受賞することが決まり、科学技術振興の重要性が再認識されている。

マスコミも「山中教授が、iPS細胞の作製に欠かせなかつた」と振り返るのは、2003年に獲得した研究資金だ。5年間で約3億円が支給され、研究のスピードが一気に加速した「などと国の研究支援が果たした役割を報じた。こうは、公明党が自民党などとの連立政権下で勝ち取ってきた科学技術関連経費の大幅増額がある。

iPS細胞とは

京都大学の山中教授が開発した人工多能性幹細胞「人工的に作り出した、体のさまざまな細胞になれる(多能性)、もととなる細胞(幹細胞)」のこと。古くなった細胞を置き換えたり、病気などで失われた細胞を補うための新しい細胞は幹細胞から作られています。自分の別の組織から作った幹細胞であれば、拒絶反応も少なく、心臓や肝臓、筋肉などの細胞に育てて移植することもできます。また新薬の開発に際して、副作用の研究にも応用されたり、難病で悩む患者さんにとっても原因究明が進むことにより治療についても将来に大きく期待されているところです。



ヒトのiPS細胞のかたまり(山中教授提供)

神戸の理化学研究所がノーベル賞受賞に貢献

「神戸の理研等による取り組みがあったからこそ、受賞につながった」山中伸弥教授は、こう言い切った。

理研神戸の発生・再生科学総合研究センターの高橋政代プロジェクトリーダーらがiPS細胞を使い「加齢黄斑変性」という目の病気の患者を対象に明年にも世界初の臨床試験を開始する予定になっている。「一般的治療に普及するのはまだ時間がかかるが神戸の研究を世界が注目している。」